

協働・責任から主体的な行動を身に付ける作業学習

～ グループ学習から学ぶことができる AAR サイクルの実践 ～

高等部
農耕班の実践

1【背景】～実践のきっかけ～

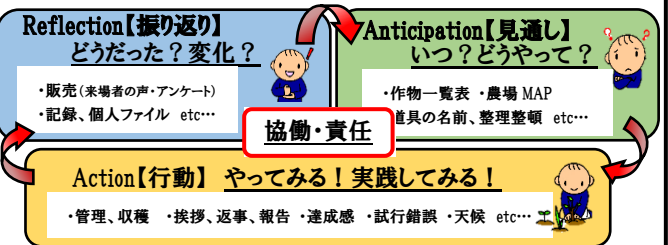
生徒たちは、作業学習を通して作物への興味や生長を気にすることが増え、学習意欲が高まっている。一人では作物を管理することは難しいため、仲間と協働して作物を担当することで、**責任感ある行動**を取ることができると期待し、新しい取り組みを設定した。

2【ねらい】～グループを通して～

- 活動を覚えて、みんなと一緒に取り組みたい・・・
- 自分の役割が分かり、進んで活動したい・・・
- 自信をもって仲間と共に活動し、責任ある行動をしたい・・・

3【方法】

- ・作物の担当を決め、グループで活動をする。
- ・朝礼や終礼でお互いの活動内容や進捗状況を共有する。
認め合う・助け合う(協働が必要な場合は依頼し、一緒に活動)



4【実践】

赤グループ(4人)

青グループ(4人)

黄グループ(4人)

	I さん	M さん	E さん
初めの様子	・友達と一緒に活動したい気持ちは強いが、グループ問わずに好きな友達のところに行く。	・リーダーとして取り組みたい気持ちや意欲はあるが、その日の活動に迷い、仲間を見てから行動する。	・一人で黙々と活動する。 ・休みがちで参加できないことも多々ある。
グループ学習を通して	・繰り返し取り組むことで、 グループの仲間が分かり 、終礼でその姿をタブレット端末の写真をを使って発表する。	・掲示物などの表示を確認することで見通しをもち、 グループに活動内容を伝え取り組む 。	・グループ活動の リーダーになる 。活動が習慣になることで、先輩として前に立ち、まとめる。 グループに伝え合い、確認して取り組む 。
実践後 AAR サイクル	・グループの仲間の存在や、 友達と一緒に取り組む良さを感じ、進んで役割に取り組む姿 が増えた。 	・自信をもって発表することが増えた。 仲間に声をかけ、一緒に取り組むなど協働 が見られた。 	・ 後輩を見守ることやグループが次の日に活動することをまとめる。責任感ある行動 が増えた。

5【結果】～グループ学習を通して～

- 一人で取り組めないことにも**仲間と協働**して取り組みました。
- 始礼、終礼にて、取り組むことや次の日の**活動を発表**することができました。
- 準備や行動などに見通しをもち、自信がついたことで、先頭立って仲間に声をかけ、**責任ある行動**が増えました。

6【考察】～共に活動することで成長する姿や考え～

協働することの大切さを知り、**仲間と共に活動する意識が高まる様子**が見られた。また道具の整理整頓をすることや、分かりやすい表示や掲示物があることで、何をするのか、どこにあるのかが判断でき、**主体的な行動**に繋がることが分かった。

7【結論】～グループ学習から道徳性や表現力などを学ぶ「生きる力」の育成のために～

本実践から、一人では取り組みにくい活動にも**協働**することで、挑戦できることや思いやることを感じる事ができた。3つのグループで活動することの大切さや、全員が集まって見合うことの大切さなどを感じる事ができた。さらにタブレット・掲示物など道具を使って経験できた**グループ、個から集団**になることで意欲が生まれた**グループ**など具体的な支援をすることでより**責任感**を抱き、主体的な行動を身に付けることができた。今後も活動の中でより**協働**する場面を設定することで、気付きや使命感などを感じられる場面が増えるよう努めていく。